

特別渉外委員会

委員長 竹内大樹
副委員長 桑畑真也
運営幹事 藤岡将弘
委員 鍛冶孝平・神脇清太・田之上尚満
外村純一・中村信一・宮島勇太

【基本方針】

戦後荒廃期より公益活動を行い続けた我々こそ、『真の公益団体』であるという矜持のもと、真に明るい豊かな社会を実現すべく、公益法人制度改革に際し、公益法人格を取得しました。それから7年目を迎える今、目的であるJC運動の進化との適合性、手段である公益法人格維持の目的化等の問題が顕在化しつつあります。そこで、創立55周年という時機に、公益法人格維持の意義・良否を検証し、不易流行を具現化する必要があります。

まず、公益法人格保持による一般的功罪を分析し、青年会議所に対する妥当性を考察するとともに、遅滞なく手続を進行させるための情報収集・資料作成を行います。そのうえで、公益法人格取得の背景及び取得後の実情を確知し、かつ、システムである単年度によって構築される本質としての“ひとつづくり”を再認した先にある、公益法人格との関係性とメンバーの所属意識を再考する機会を創出します。これにより形成される問題意識をもとに、メンバー間のコンセンサスを醸成し、本会議所のあるべき途を決定します。その後、従前より山積された定款・諸規程の問題点を抽出し、変更の必要性を検討したうえで、総意に沿った抜本的改善を図ります。次に、創立55周年では、事業構築を通じて次世代リーダーの育成を行い、学び舎再興への足掛かりとしながらも、事業実施に際して機能的かつ円滑な運営を行います。そして、黎明期よりお力添えいただいた全ての皆様に敬意を表するとともに、敬愛する先人達が、創始の精神に基づき、連綿と紡いでこられた崇高な理念に触れながらも、メンバー各人が時代に応じた発展を遂げるための機会を創出します。

総意に基づき人生最後の学び舎へと原点回帰したとき、メンバーの自己成長は螺旋的発展を遂げ、質・量ともに向上した多様なリーダーたちがこの圏域に輩出される結果、永続的かつ実効性ある『真の公益活動』、すなわち循環する“まちづくり”へと昇華されます。

【事業計画】(案)

1. 公益検討例会の実施
2. 創立55周年事業の全体運営・企画(組織運営部会)
3. ASPAC「鹿児島」への参加企画
4. 定款・諸規程の運用、把握、見直し[共同]
5. 日本本会・九州地区協議会・宮崎ブロック協議会、及び出向者への協力支援
6. 共催事業への協力支援
7. 会員拡大[最重要]

【予算】(案)

1. 公益検討例会の実施費(その他の事業費)	148,000円
合計	148,000円